

# The 2 Chome Times 2024年 2月号

NO1のプレミアムストリートをめざして



NO309号.

2024年・2月・25日

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス 2月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

## ★ガラス作家 金 東希 (キム・ドンヒ) 氏について

今年の4月6日(土)、ストリートミュージアム収蔵式典の新たな作品を創って頂いたのは、韓国のガラス作家、金東希氏です。お父様の仕事の関係で大学1年生の時に尼崎に移住され、語学学校に通った後、武蔵野美術大学大学院を卒業され、学んでいたガラスをさらに研究するために、全ての環境が整っていた富山で創作活動を始められました。金氏が目指されているのは「人の心が温まる」ような作品だそうで、ガラスは「透明感」が魅力の素材であり、加えて「やわらかさ」や「やさしさ」を表現し、美しい自然を有する富山の魅力も作品で表現できればと考えられたそうです。先日、お目にかかりましたが、今回の作品もお人柄の伝わる「温かな」作品です。

実は1月31日から2月4日まで東京の南青山で「キム・ドンヒ個展」が開かれ、久利理事長がご挨拶を兼ね鑑賞させていただきましたが、金氏も大変喜んで下さり、その後に早々に収蔵式に収められる作品「夕焼け」を2丁目にお送り下さいました。作品の下部が薄い橙色で上に同じく薄いブルーのグラデーションとなっており、何故かもっと純真だった自分の子供の頃に見た夕焼けを思い出してしまいました。これこそ「温かみ」なのでしょう。

4月の収蔵式典が楽しみです。

### Donghee KIM / 金東希

1989 韓国晶原市生まれ

2013 第二回そば猪口アート公募展 優秀賞

2014 神戸芸術工科大学 卒業

武蔵野美術大学大学院 入学

第53回日本クラフト展 入選

2016 武蔵野美術大学大学院 卒業

富山ガラス工房 所属

2018 第57回日本クラフト展「U35賞」



(金 東希 氏)



(夕焼け)

## ★ホップ、ステップ、ストークス！！

## 神戸ストークス VS 岩手ビッグブルズ観戦記

パリオリンピックに男子バスケットボールチームが48年ぶりに自力出場を決め、さらに女子バスケットボールもカナダ戦に勝利し、男女オリンピック同時出場になりました。そのためBリーグは大いに盛り上げを見せていますが、そんな中、機会があり1月28日(日)にワールド記念ホールで行われた神戸ストークス対岩手ビッグブルズの試合を観戦してきました。会場は小中学生をはじめ満席で、シュートが決まるたびに大歓声！チアガールの応援も迫力があり、岩手ビッグブルズに85-70で勝利しました。

私自身はそれ程Bリーグには詳しくなかったので、地元のチームである神戸ストークスについて少し調べてみました。2011年に「兵庫ストークス」として発足したプロバスケットボールチームが2015年に本拠地を西宮市に移転し、チーム名を西宮ストークスに変更し、Bリーグ初年度の2016-17シーズンに2部の初代チャンピオンに輝きました。



Bリーグでは2026年に入場者数や売上などをもとにした「新Bリーグ」を創設予定。西宮ストークスは新Bリーグ初年度からの参入を目指していて、新基準などの条件を満たすために神戸への移転を決定したそうです。そして昨年、神戸ストークスにチーム名も改められました。2025年4月に神戸港第二突堤で開業予定の「GLION ARINA KOBE」に本拠地を置くことになっており、今から楽しみです。このアリーナはもちろんプロバスケットボールだけではなく、音楽コンサートや多彩なイベントへの対応が可能で、アリーナの目指す存在意義「この世界の心拍数を、上げていく。」が期待されます。これからの神戸ストークスにからます目が離せませんね！



### ★社会福祉法人 光朔会 理事長 山口 元氏 講演

街創り協議会のメンバーの社会福祉法人 光朔会オリンピアの山口 元（ヤマグチ ハジメ）理事長が2月18日（日）に阪急六甲駅の北側にあるカトリック六甲教会で「～高齢社会の中に生きるわたしたち～」と題して講演されました。オリンピアさんは特別養護老人ホーム、高齢者総合福祉施設、グループホーム、保育園等々、幅広く社会に貢献されています。山口氏は「兵庫・生と死を考える会」の副会長をしておられ、日頃の業務ではそれこそ多くの「生と死」に携わっておられます。講演で印象深かったのが、「胃瘻（寝たきり状態の方に腹部から直接胃に栄養を送る事）は虐待である」という言葉でした。海外では胃瘻そのものが否定されているのだそうです。日本の介護では「安全の為」という建前から、安易に患者を拘束し、さらに言葉による拘束（ダメ！・ヤメテ！）も平気で行われているのが現状だそうです。それは日本的善意、つまり同情と哀れみといった優生学思想であり、それは「尊厳の否定」に繋がっているのだそうです。



社会福祉法人オリンピアでは【①敬語を使う②嘘をつかない③尊厳ある生活へのお手伝い】に常に取り組み、「寝たきり高齢者のいない国」を目指して励んでおられるそうで、高齢の母親がいる私には本当に頼もしく感じられました。山口理事長、これからも高齢社会の支えとなる活動を宜しくお願い致します。

### ★編集後記

先日メディアで取り上げられていた内容に凄く印象深いものがありました。多くの方々も観られたのではないのでしょうか。それは能登半島地震で段ボール製の簡易住宅「インスタントハウス」が大活躍していて、組み立ては15分、原価は約1万円で、屋根と扉、窓もついた小さな「家」が提供されているという内容でした。開発したのは名古屋工業大学の北川啓介教授ですが、東北大震災の時に建築家として被災地を視察する機会があり、その際小学生から「仮設住宅が出来るのに、何故3か月や半年も待たなければならないのか教えて欲しい」と聞かれ、返す言葉が無かったそうです。それから低コストで搬送もしやすく多くの方々が必要としているプライバシーを念頭にして開発を進め、実際に活用する事が可能になりました。屋外用簡易ハウス（テントシートを膨らませ、内部に発泡スチロールを直接塗布し、1時間で完成する上、保温効果も抜群！）は15万円です。面白かったのは、仮設住宅がすぐには出来ない理由を全て書き出し、反対側にその理由の反意語を同じく書き並べ、実施可能な方法を探ったというものでした。私達は出来ない理由ばかり探りがちですが、マイナスではなく、ポジティブとなる逆転の発想が本当に大事だと感じました。



美しい街 共に歩む ビルメンテナンス  
つるかめ管財株式会社 078-371-3589

